



農業



福祉



農福連携の手引き

『農福連携の効果』と
『障害者と農作業のマッチングのポイント』

農福連携を始めてみよう！

～農福連携の効果とマッチング成功へのヒントを紹介！～

農林水産省 北陸農政局
令和5年4月

農福連携について

農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者等の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者等の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組です。

農・福双方にとって**メリットの大きい取組**となっています。

<農福連携の主なメリット>

農
業

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

福
祉

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等

令和元年度末時点で、**4,117件**の農業経営体や障害福祉サービス事業所等が農福連携に取り組んでおり、令和6年度末までに新たに3,000件の実施主体を増やす目標が掲げられています。

農福連携は障害者の活躍の場の創出だけでなく、農作業の分解や農作業のマニュアル化・指示内容の言語化等、農業の担い手づくりにもつながり、色々な効果が期待できる取組です。

農福連携の始め方

農福連携には、主に以下の3つの方法があります。特に主流となっているのは①の請負型です。

① **障害福祉サービス事業所に農作業を請け負ってもらう方法**

② **農業者が障害者を雇用する方法**

③ **障害福祉サービス事業所が自ら農業生産を行う方法**

①の場合、施設外就労となり、福祉の専門家である職業指導員の同行が必須となります。農業者から直接障害者に指導はせず、職業指導員を介して指導・指示を行います。

障害者とのコミュニケーションや連携に不安がある場合でも、作業をする障害者を良く知る職業指導員がいるため、不安な点や作業内容で悩むところは、相談しながら進めることができます。

～連携開始までの主な流れ～

詳細は、裏表紙の参考資料をご覧ください

連携先の選定

共同受注窓口や自治体等に相談

作業内容の
相談

依頼したい内容や必要な能力・スキルを整理しましょう！

(お試し)

作業が複数ある場合や単価を決めるために「お試し」も有効

内容、単価
時期等の決定

作業内容や請負単価、時期等を決定して正式契約を締結しましょう！

マッチングにおけるポイント！

石川県の農福連携促進アドバイザー
笠間令子さんにお伺いしました！

～農業者と福祉事業所のマッチングをお互いにとって良いものにしましょう！～

笠間令子さん（㈱笠間農園取締役）は、こまつなの収穫やえだまめの選別作業等、年間を通じ6つの福祉事業所と連携しており、2018年度からは農福連携促進アドバイザーとして石川県のマッチングにも協力しています。

マッチングは、①連携を希望する農業者から農作業の全体概要を聞き、農業者と相談しながら作業内容を決定、②福祉事業所に作業内容を伝えて連携先を募集し、③農作業の現場で福祉事業所に作業イメージを伝え、福祉事業所が作業の可否を判断する、という流れで進めています。

笠間さんは県のマッチングの場に立ち合い、アドバイザーとして作業内容や単価等の条件について必要な助言や調整を行っています。マッチングに当たっては、農業者と福祉事業所との話し合いの中で、想定していた以上に作業内容の幅が広がることもあるそうです。

農福連携に詳しいアドバイザー等に相談しながらマッチングを進めることで、コミュニケーション上の不安の解消や連携のミスマッチを避けることができます。まずは、お試しから始めてみませんか？

農業経営の方向性や作業内容等の状況に応じた連携をしていきましょう！

農福連携がもたらす効果

農福連携に取り組むことによって、単に労働力/就労先を確保できるだけでなく、農業面・福祉面双方への多様な効果が期待されます。

農業者にとっては、既存の人材とは異なる個性・特性を有する人材を獲得できる、福祉事業所との連携が生まれる等の特徴から、農業経営や人材育成等の面での効果が期待できます。障害者にとっては、屋外作業が多い、自然に触れられる等の農作業ならではの特征から、精神面・身体面・社会面の効果が期待できます。

また、効果的な農福連携を実施するためには、**農業側・福祉側が連携し、障害者の働きやすさや安定した活躍につながる工夫・取組を行うことが大切です。**こうした工夫・取組が、**農業経営・福祉事業所・障害者の変化を促し、農福連携による効果を高めることにつながります。**

《農福連携の特徴と農業面・福祉面における効果》

農業者にとっての農福連携の特徴

- 既存の人材とは異なる個性・特性を有する人材を獲得できる
- 福祉事業所との連携が生まれる
- 企業の社会的価値・評価が高まる
- 他分野との連携や活用できる資源が広がる

障害者にとっての農福連携の特徴

- 屋外作業や体を動かす作業が多い
- 自然に触れながら作業できる
- 集団で連携しながら作業する機会が多い
- 農産物の成長や収穫の喜びを体感できる
- 多様な作業があり個性に合った作業が見つかる



【農業面における効果】

【効果的な農福連携のために必要な工夫・取組】

【福祉面における効果】

A 経営マネジメントの改善につながる効果

売上・収益向上
適切な人員配置
事業強化・経営多角化

B 人材の育成・確保につながる効果

労働力の確保
従業員の意欲向上
誰もが働きやすい労働環境の確立

C 商品の付加価値の向上につながる効果

品質向上
商品の訴求力の向上
販路の確保・拡大

D 生産コスト削減、生産・製造管理の高度化につながる効果

作業効率の向上
農業生産工程管理（GAP）の徹底

E その他の効果

農・福双方の資源の活用
新たなビジネスの創出
地域農業への発展
社会貢献

通年の
作業創出

誰もが
働きやすい
職場環境

誰もが
分かりやすい
作業指示

作業しやすい
道具・設備
の導入

個人の適性を
踏まえた
人員配置

地域とのつながり
や他分野との連
携の拡大

ストレスの軽減

精神面の安定

認知機能
・集中力の向上

自己肯定感の養成、
自信の向上

仕事のやりがい
・生きがいの創出

基礎体力の向上、
健康増進

身体機能の
回復・向上

睡眠周期の安定、
生活習慣の確立

コミュニケーション能力
の向上

思いやり・社会性
の醸成

就労に必要な能力
・作業技術の向上

工賃の向上

①精神的
効果

②身体的
効果

③社会的
効果

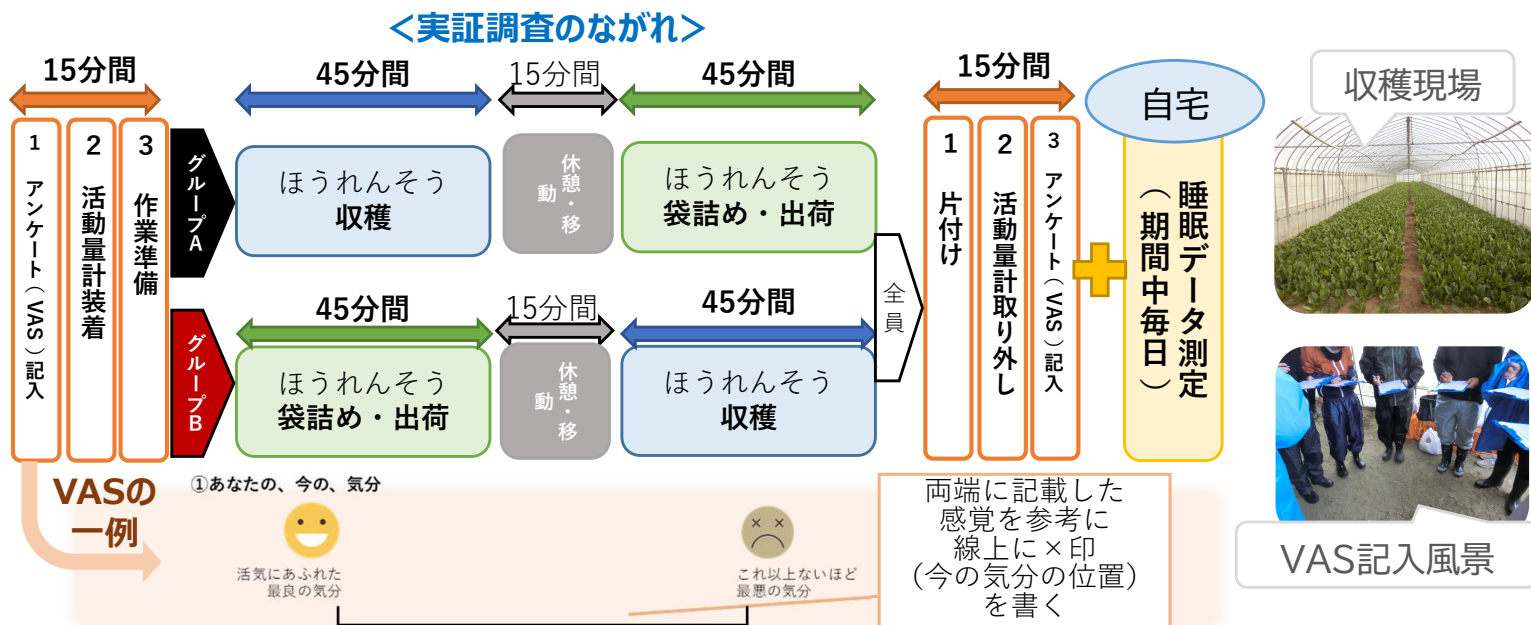
実証調査からわかった農福連携の効果

令和3年11～12月にかけて、北陸農政局では、農福連携の農業経営に与える効果と障害者に与える効果を把握するため、実証調査を実施しました。（水曜・土曜に分かれて、7名程度ずつのグループで作業）株式会社笠間農園にて、ビニールハウス内でのほうれんそうの収穫作業や、出荷のための袋詰め作業を行っていただき、被験者の精神・身体への影響も把握しました。

実証調査の手法・収集データ

実証調査は約2か月間、1週間に2時間の農作業を行い、データを収集しました。

被験者（計27名：うち障害者18名）には、農作業中の活動量計の装着や自宅での睡眠測定器の設置、作業前後のアンケート（VAS:視覚的アナログスケールを用いたもの。満足度や気分を把握）に協力してもらいました。

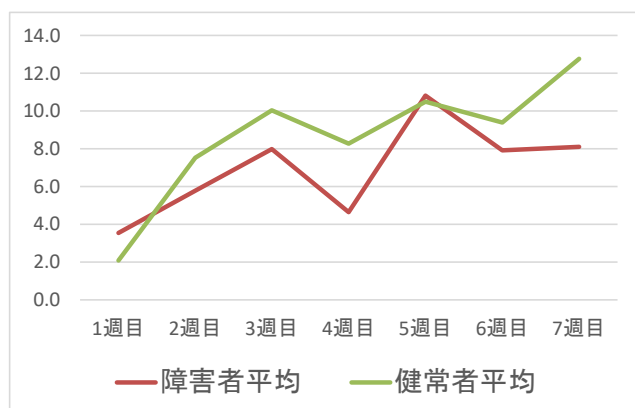


実証調査の結果（1）作業効率の向上

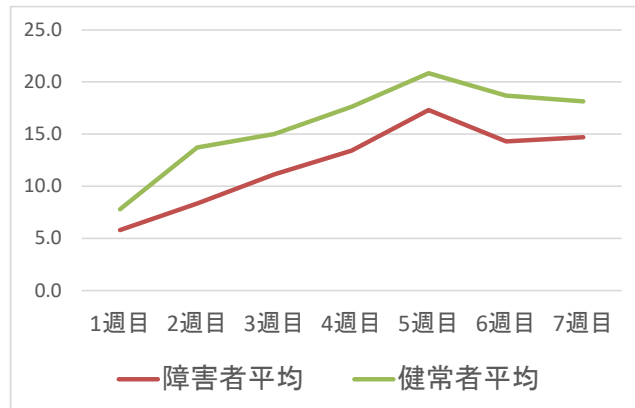
実証調査を行った7週間で、障害者・健常者ともに、作業効率の向上がみられました。

収穫量は、天候や生育不良・雑草の多さ等が影響し、4週目に減少傾向がみられましたが、週に1回、1日2時間の作業でも欠席の多かった1名を除き、全員の作業量がアップしました！

<収穫量(kg)が週ごとにUP>



<袋詰め量(個数)が週ごとにUP>



作業の様子



補助具を用いながら 既定量を計測



注釈1) サンプル数が少ないことから数値の読み取りには留意が必要である。

注釈2) 被験者は、これまで鎌を使用した収穫経験がない者である。

注釈3) 水曜日は2つの福祉事業所が参加。1事業所あたり7名の参加で、それぞれに1名の職業指導員が同行した。土曜日の被験者は、福祉事業所所属でないため、個々人で参加した。

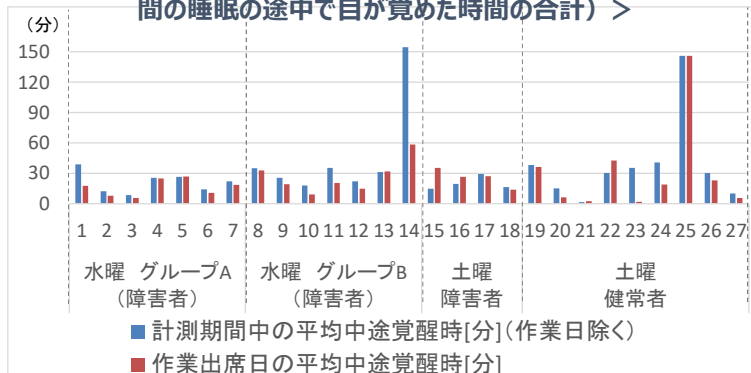
実証調査の結果（２）心身への好影響

実証調査において、農作業は心身にも好影響を及ぼしている可能性が高いことがわかりました。

実証調査を行った7週間のうち、農作業を行った日には、それ以外の日と比較して、質の良い睡眠をとることができる傾向がみられました。

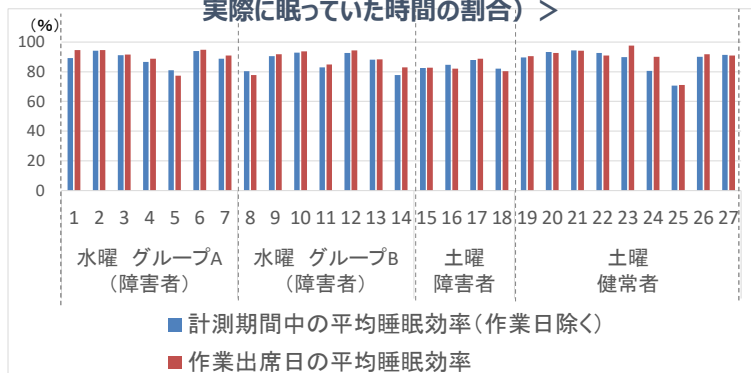
27人中20人が、実証調査で作業した日の夜は、他の日よりも途中で目覚めにくい傾向に！

＜中途覚醒時（寝ついてから起床までの間の睡眠の途中で目が覚めた時間の合計）＞



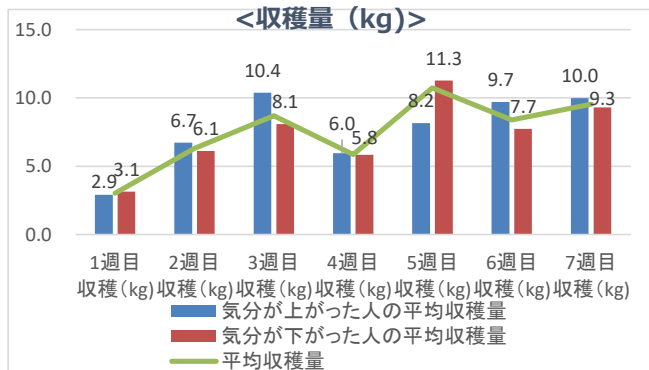
27人中19人が、実証調査で作業した日の夜は、他の日よりも睡眠効率が良い傾向に！

＜睡眠効率（就床から起床までの時間のうち実際に眠っていた時間の割合）＞

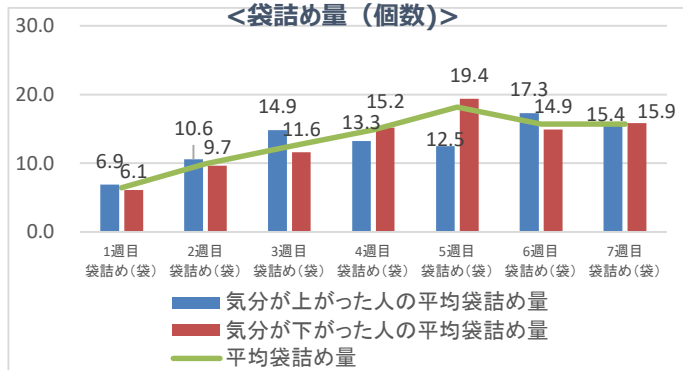


作業前より作業後に気分あがった人はそれ以外の人と比較して、収穫・袋詰め量が多い傾向にあった（VASの結果より）

＜収穫量（kg）＞



＜袋詰め量（個数）＞



注4）サンプル数が少ないことや、作業時間以外の行動制限等は設けていないことから、数値の読み取りには留意が必要である。

次ページ
から

北陸地域における取組事例・事例の見方

●地域特性を踏まえた農福連携の取組の参考に！

北陸地域では、水稻をはじめ、施設・露地栽培で多様な農作物が栽培されています。降雪や気温の低下がみられる冬期においても、ハウス内での作業や出荷調製・加工作業を創出し、通年の作業を確保する工夫もみられます。こうした地域特性を踏まえた取組を参考にできるよう、**本手引きでは北陸各県の4事例を取り上げました。**

●障害者が担う作業内容の参考に！

農福連携の取組のポイントや工夫点は、農業経営の方針や栽培する作物、出荷形態によっても異なります。それぞれの品目のどのような作業を障害者に割り当てて、効果的な取組を実現しているかを紹介します。

●効果的な作業マッチングの参考に！

いずれの事例も、農業者と福祉側が密にコミュニケーションを図りながら、農業者と福祉事業所の意向、障害者の働きやすさを柔軟に調整することで、双方にメリットのある取組を実現しています。こうした各事例の取組や考え方をまとめ、作業準備～作業管理までの作業マッチングのフローに沿って、ポイントを紹介します。

▶ 作業マッチングのフロー

作業準備

作業指示

作業実施

作業管理

4つの事例をご紹介します！

蒼ファーム株式会社

（富山県下新川郡入善町）

株式会社笠間農園

（石川県河北郡内灘町）

有限会社あわら農楽ファーム

（福井県あわら市）

CuRA!

（新潟県新潟市）

- 水稲
- 露地・野菜
- 施設・野菜
- 果樹
- 農産物加工
- その他
(大豆)

● 事業概要

- 水稲25ha、大豆43ha、にんにく30a、にんじん30a、カリフラワー30aを栽培。にんにくの製品加工を実施。
- 大豆は、生産の難しい兼業農家の転作農地を借りて栽培している。
- 役員3名、従業員3名。中長期的な体制を考慮し、多様な年齢層の従業員を雇用している。

● 農福連携の取組概要

- 令和元年より、地域の味噌製造業者の紹介で、NPO法人「工房あおの丘」（B型事業所）へにんにくの作業を委託している（施設外就労）。4名～5名を受け入れており、収穫は6月に2日間、出荷調製作業は6～7月に週4日・1日あたり2時間。
- また、令和2年より、味噌製造業者への出荷用に味噌原料用大豆の選別作業（2番くず大豆から良いものを選別し特定加工用大豆として利用）を委託している（施設内就労、約2t/年）。11月末～6月にかけて、延べ7～10名が作業を行っている（福祉事業所としては、空きが出たときの作業として位置づけ）。

● 障害者の主な作業内容

- にんにくの収穫、皮むき・根切り作業と大豆の選別作業に障害者が関わっている。
- 将来的には、にんにくの製品加工も委託できるよう、製造方法・工程の平準化に取り組んでいる。

＜障害者の主な作業内容（例）＞

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
露地・野菜 (にんにく)	収穫	掘り起こしたにんにくの拾い上げ、根の土落とし、かご入れ、収穫物の運搬	6月（2日間）
	出荷調製作業	収穫後のにんにくの皮むき（手袋をつけて実施）、根切り（彫刻刀を使用）	6月～7月

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
その他 (大豆)	選別作業	「2番くず」の大豆の選別作業（手作業） ※「2番くず」までの選別は従業員が機械で実施	11月末～6月
	出荷	施設から直接納入先（味噌製造業者）へ納品	随時



【にんにく・収穫】



【にんにく・根切り作業】



【にんにく・皮むき作業】

● 農福連携の効果・影響

- 一部の作業を障害者に担ってもらうことで、他の作業に集中でき、全体の作業効率が向上した。
- 手作業が必要になる2番くず大豆の選別を委託することで、農業者としては販路の拡大、味噌製造業者としては仕入れコストの低減につながっており、双方にメリットのある取組を実現している。

有限会社あわら農楽ファーム（福井県あわら市）

水稲

露地・野菜

施設・野菜

果樹

農産物加工

その他
(そば・大豆)

事業概要

- 水稲85.5ha、そば65a、大豆137a、さつまいも15a、メロン10a、いちご（観光農園）10a を栽培。あわせ柿、あんぽ柿、いちごジャム、かき餅の加工を行っている。その他、水稲苗の販売や水稲の作業受託、粳の乾燥調製作業の受託、草刈りの作業受託等も行っている。
- 従業員は7名（役員2名、職員4名、パート1名）。

農福連携の取組概要

- 平成13年に福井県内の社会福祉法人から独立し（平成25年に改称）、農福連携に取り組んでいる。
- 現在は、A型事業所（㈱農楽里）から11名を受け入れている。基本的には週5日・9時半～16時で勤務。
- 農業法人と福祉事業所の事務所が隣接しており、日々コミュニケーションをとっている。

障害者の主な作業内容

- いちごジャム製造以外のすべての作業に障害者が関わっている。そのほか、㈱農楽里の施設内就労として、柿の摘果・摘蕾の補助、収穫等を行っている。
- 除草剤をなるべく使わないようにしているため、草刈り作業（鎌、刈払機使用）が多く発生する。
- 安全面に配慮したうえで様々な機械を使って作業している（自動皮むき機：柿、洗浄機：さつまいも 等）。
- 悪天候や真夏の暑すぎる日等は、室内で座学や研修を行っている。

＜障害者の主な作業内容（例）＞

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
水稲	草刈り	作業全般	-
	育苗	育苗箱の運搬、箱並べ	4月～6月初旬
	田植え	育苗ハウスから運搬車への積込、田植え機への積込	4月～6月初旬
	乾燥調製作業	袋詰め、運搬車への積込	9月～10月
	精米作業	精米機への玄米の投入、ぬか取り、計量・袋詰め	9月～10月

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
露地・野菜 (さつまいも)	草刈り	作業全般	-
	定植	苗の運搬、苗の挿し込み作業	5月～6月
	収穫	掘り取り作業、収穫物の運搬	10月頃
	洗浄	洗浄機への投入、箱詰め（コンテナ）	11月頃



【畦の草刈り（刈払機使用）】



【水稲・田植え機への積込】



【さつまいも・収穫】



【さつまいも・定植】

農福連携の効果・影響

- 受け入れる障害者の数を増やす過程で、作業を確保するために品目や規模を拡大してきた。
- 農業側は担い手の確保ができ、福祉側は障害者の雇用創出及び作業能力・生活能力の向上につながるため、双方にメリットのある取組である。

株式会社笠間農園（石川県河北郡内灘町）

水稲

露地・野菜

施設・野菜

果樹

農産物加工

その他
(たまねぎ苗)

事業概要

- ハウス58棟（1.7ha）と露地5haでこまつな、ほうれんそう、たまねぎ苗、えだまめ、にんじん、はくさい、ブロッコリー等を栽培している。
- 従業員は経営者2名（代表者夫婦）、正社員2名、長時間アルバイト1名、短時間アルバイト12名。

農福連携の取組概要

- 平成29年から「畑でリハビリを！」という思いから取組を開始。アルバイト社員の高齢化に伴って減少する作業量を農福連携で補ってきた側面もある。現在は、施設外・施設内就労合わせて、6事業所へ委託している。令和2年度は年間で約2,000人の障害者が携わっている。

障害者の主な作業内容

- こまつなの収穫、えだまめの選別・袋詰め、水稲の育苗箱並べ、たまねぎ苗の出荷作業に障害者が関わっている。来年度より、こまつなやにんじんの袋詰め作業、六次化商品の加工作業も依頼予定。

＜障害者の主な作業内容（例）＞

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
施設・野菜 (こまつな)	収穫	刈り取り、コンテナ入れ ※袋詰め以降の作業は基本的に従業員が実施	通年 (週2日～3日、2時間/日)

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
施設・野菜 (えだまめ)	選別作業	脱穀後のえだまめを等級別に選別（基本は手作業、1事業所のみ機械使用） ※収穫や脱穀作業は従業員が実施	夏季2か月間 (施設外：週5日、3～5時間/日) (施設内：週5日、終日)
	袋詰め	所定の袋に袋詰め	



【えだまめの選別（機械使用）・袋詰め】



【こまつなの収穫作業 1】



【こまつなの収穫作業 2】



【えだまめの選別（手作業・機械使用）】



【たまねぎ苗の出荷作業】



【育苗箱並べ】

農福連携の効果・影響

- えだまめの出荷量の増加につながっている。また、こまつなの収穫にかかる人材を他の作業に充てられている。
- 従業員は、障害者が農業に溶け込んでいく様子を見て、地域福祉を支えようという思いが生まれている。

水稲

露地・野菜

施設・野菜

果樹

農産物加工

その他

事業概要

- 畑74aとハウス1棟でハーブ類、京野菜、果樹等の栽培（農薬・肥料・除草剤不使用）、ハーブティーやジャム等の加工を行っている。首都圏の高級飲食店や百貨店へ主に販売している。福祉色を出さずに、高い品質で販売することを重視している。従業員は正社員1名とパート2名。

農福連携の取組概要

- 農業の戦力・活力の確保と、障害者の活躍の場をつくることを目的として、「いちからすべて みんなと一緒に」をコンセプトに、就農と同時に農福連携の取組を開始。施設外就労を3事業所から受け入れている。そのほか、育苗を1事業所へ委託している（施設内就労）。A型事業所から7名、B型事業所から3名の計10名程度の障害者が現場で作業しており、基本的には、週5日・1日4時間半勤務。

障害者の主な作業内容

- 加工も含めて、すべての作業工程に障害者が関わっている。責任とやりがいを感じて作業を行うことで、生産量・品質向上につながっている。

＜障害者の主な作業内容（例）＞

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
露地・野菜 (ハーブ等)	作業全般	除草、耕耘等の圃場整備、播種、定植、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程	通年

品目	作業内容	作業内容詳細	作業時期
農産物加工 (ジャム等)	作業全般	加工品の製造、瓶詰、包装、ラベリング、販売等のすべての作業工程	通年



【圃場整備】



【定植】



【播種】



【収穫】



【加工作業（ジャム）】



【ラベリング作業】

農福連携の効果・影響

- 障害者と一緒に作業することで、全体の作業効率が高まり、売上が増加した。
- 代表者が商品企画や営業に時間を割けるようになり、商品力の向上や販路拡大等の事業展開につながった。

取組事例からみた効果的な作業マッチングのフローとポイント

！ マッチングのPoint

◆最終責任を農業者が負う工程設定

商品の品質・出荷管理は農業者の仕事。
工程の細分化と作業範囲を明確にして、役割分担を行いましょう。

◆作業全体を経験し得意分野を伸ばす

様々な作業を体験してもらいましょう。
依頼しやすい作業や効率的に行える作業、個々人の得意・不得意を見極めることができます。
全体の流れを知ると、草刈り等の重要性も伝わり、障害者の意欲喚起にもつながります。

◆作業に必要なスキルを考える

個数を数える作業、力仕事、手先を使った作業なのか等を整理しましょう。
マッチング時に整理しておくことで、作業に合った障害者との連携が期待できます。

◆農業者だけで判断せず相談する

福祉事業所（指導員）は障害者の得意なことや日々の様子をよく知っています。
農業者だけで判断せず、専門知識を持つ指導員と相談しながら作業の割り当てを検討しましょう。

◆農業者側でも工夫する

農業者が依頼したい作業内容をしっかり事前に分解・整理しておきましょう。
当日の農作業全体を見て、農業者側が配置等を考えることも重要です。

◆作業内容の伝え方にも注意

天候等の影響で、当日**急に作業内容を変更すると障害者が混乱してしまう**ことも。
指導員と相談して、伝え方・タイミングを工夫しましょう。

①作業準備

●障害者が作業しやすいよう作業工程を細分化

（笠間農園）障害者は複数の工程を同時に行うことが苦手な人が多い。工程を細分化し、工程ごとに担当者を配置して効率的に作業できるよう、作業を整理している。

●一連の作業を経験する中で適性を見極める

（あわら農楽ファーム）一通りすべての作業を経験してもらい、一般就労に向けてどう成長してもらうかも踏まえて、各障害者の作業適性や割り当ての方針を検討している。

（CuRA!）全員にすべての作業を経験してもらい、個々人の得意・不得意を把握している。すべての作業をまずはやってみることで、本人や指導員の新たな発見にもつながる。

●作業の特性によって判断する

（蒼ファーム）体力が必要な作業、細かい動作が必要な作業等、作業の特性によって向き・不向きを整理している。

（CuRA!）A型の障害者とB型の障害者では得意な作業が異なるため、分業することで全体を効率化している。

②作業指示

●福祉事業所（指導員）が作業を割り当てる

（蒼ファーム）（笠間農園）障害者の適性をよく理解している指導員が、作業内容や日々の様子を踏まえて、作業の割り当てを行う。

（あわら農楽ファーム）事前相談のうえ、最終的には福祉事業所側の責任者が、個人の特性や各作業の経験値等を踏まえて決定している。

●作業内容を管理する農業者側が割り当てる

（CuRA!）あらかじめ作業内容を整理したうえで、当日のメンバーを見てから作業の割り当てを決定している。

●指導員を通じて伝達する

（蒼ファーム）指導員へ作業方法を伝え、指導員から障害者へ教えてもらうことを基本にしている。

●当日朝に作業内容を掲示する

（あわら農楽ファーム）当日朝に作業の割り当てをホワイトボードへ掲示する。

（CuRA!）作業開始前に作業の工程表を紙で貼り出す。

③作業実施

● 従業員と一緒に作業しながら指導・フォローする

（蒼ファーム）従業員も一緒に作業を行っているため、レギュラーな作業を行う際には適宜相談しながら進めている。

（CuRA!）従業員も一緒に働きながら、本人の様子を確認したり、適宜作業をサポートしている。

● 障害者がチーム単位で作業する

（笠間農園）工程を細分化する作業については、障害者のチーム単位で作業しており、健常者と障害者で工程を分担することは無い。

● 覚えやすく分かりやすい作業指示・指導を行う

（笠間農園）作業内容・判断基準を的確に伝えられるよう、口頭であいまいに指示するのではなく、写真付きの資料や見本、SNSを使って視覚的に伝えている。

（CuRA!）道具よりも覚えやすく、使いやすい方法として、自分の指の長さ等を物差しにした測り方等を教えている。

● 障害者が作業しやすい環境を整える

（蒼ファーム）トイレが近い障害者の方も多いため、できる限りトイレが近い場所で作業するようにしている。

（CuRA!）座りながら安定して作業ができるよう、シートの上で作業できるようにしたり、丸太等を用意している。

④作業管理

● 余裕のある期限を設定し、作業を急がせない

（蒼ファーム）最初のステップとして、作業の生産性よりも、継続して作業できること、安定して来てもらうことを大切にしている。作業に慣れることで、集中して作業できるようになる。

● 障害者の調子・意欲を踏まえて調整する

（あわら農楽ファーム）作業前後のコミュニケーションを重視しており、その中で個人の特性を見極め、作業内容や体制等を調整している。

（CuRA!）作業前後のコミュニケーションや作業道具を選ぶ様子から、その日の調子や作業に対する意欲を判断し、作業の割り当てを調整している。

● 障害者が迷わないよう判断基準を明確にする

（笠間農園）障害者は過度に丁寧に作業してしまうことがある。その時間のロスを短縮するために、判断基準を明確にし、どこで手を抜けば良いかを伝えている。

！ マッチングのPoint

◆ 農業を通じて障害者の可能性を広げる

必要なサポートをしながらできる作業を増やしていく視点も大切です。また、やりたい作業を自分で選択してもらうことで、障害者の自主性を伸ばすことにもつながります。

◆ 障害者同士のサポートを促す

人によって作業の技術・スピードは違うため、経験の多い方と少ない方を組み合わせることも有効です。互いにサポート・教え合いながら作業を行うことで、作業効率や技術力の向上につながることも期待できます。

◆ 事業所の利用を前提とした機械導入

設備・機械の導入にあたっては、福祉事業所と相談しながら、機械導入後の作業内容や障害者の割り当てをシミュレーションし、対応の可否を相談しましょう。事前の相談を踏まえてしっかりと使いこなせる機械を導入することで、結果的に作業効率が1.5倍向上したケースもあります。

◆ 自分で作業をやりきることを大切にする

障害者が工夫しながら作業に取り組めるよう、余裕を持った期限を設定することを心がけましょう。

作業を急かさない、ミスした際のリカバリー方法も伝える等、自分で作業をやりきることで障害者の自身や意欲にもつながります。

◆ 臨機応変に作業を変更する

作業の進捗や障害者の意欲・体調等に応じて柔軟に作業の割り当てを変更できるよう、複数の作業パターンを準備しておきましょう。

◆ 判断に悩む時間を減らす工夫をする

障害者は柔軟な対応が苦手な人も多いため、過度に悩まなくて良いよう、基準や手本を見せたり、悩んだ際は捨てる／収穫して良い等の基準を設定しましょう。

農福連携に取り組んでみませんか？

ご挨拶 北陸地域で農業や福祉に関わる皆様へ

農福連携は厚生労働省や農林水産省、自治体等が取組の拡大や普及に向けて色々な取組や支援を行っております。

北陸農政局のHPでも、農福連携の情報発信やお知らせを行っておりますので、是非ご覧ください

(https://www.maff.go.jp/hokuriku/nouson/noufuku_suisin.html)

農福連携は、農業者にとっても障害者にとっても、大きなメリットがある取組です。

手引きの情報を参考に、取組の検討をお願いいたします。

農林水産省 北陸農政局

本手引きは、令和3年度農福連携の取組が障害者及び農業経営者にもたらす効果実証委託事業の一環で作成されました。

農林水産省HP「農福連携の推進」から各種パンフレットやマニュアルがダウンロード可能です。具体的な開始方法や取組における詳しい情報を知りたい方は、<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/pamphlet.html> からご確認下さい。

取組手順を知りたい方へ (農業者・障害福祉サービス事業所向け)



農福連携スタートアップマニュアル 第1分冊
(農林水産省・厚生労働省)

障害者に適した作業を知りたい方へ



『農業分野における障害者就労の手引き』
(農村工学研究所)

本手引きに関する問い合わせ先

農林水産省 北陸農政局 農村振興部 都市農村交流課
電話番号：076（263）2161（内線3485）